

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 455 回 消費税増税に断固反対する！これだけの理由

2012. 1.15

これだけは言っておきたい。その一つが消費税増税である。テーマが難しいので、つい読み
難いコラムになりがちだが、極力分かりやすく書きたいと思っている。
紙面の関係上、どうしても舌足らずがあるがご容赦願いたい。
私になぜ、消費税増税に反対か？これだけの理由があることをお伝えしたい。

1. 中小企業にとって、そもそも「消費税」とは

消費税は滞納額がダントツに多い税金である。国税滞納額の約半分は消費税だ。
滞納が異常な、不自然に多い理由は「現実には消費税の負担者が最終消費者ではない」と
いう点にある。建前と現実が完全に乖離している。
消費税が間接税といわれる所以は、「納税負担者」と税制上の「納税義務者」が異なるか
ら、法人税や所得税などと根本的に異なる点にあるといわれている。「納税義務者」は「納
税負担者」から「一時的に預かる」というのが、その仕組みである。
しかし現実には、これが全く制度として機能していない。もとより大規模に輸出できる大企業
は、「輸出」に消費税はかからないことになっており、逆に多額の輸出還付金(輸出促進の意
図)を受け取っている。今回、比較的大企業が増税に寛容なのは、この点にある。
だが、日本の企業の大部分は中小零細業者だ。「価格に消費税など転嫁できるわけがな
い」という現実がある。結果的に中小零細業者は、常に絶対的な「納税義務者」であり、納
期がくれば「自腹を切っても納税」しないと、税務署の厳しいチェックを受けるのである。
今まで5%だからまだ何とかなったが、野田首相が目指す10%になれば、物騒な話だが、
首を吊るしかないか、滞納が益々増えるだけであろう。事実、統計にも見え難い、中小零細
業者の自殺が相当数ある現実を、無視してはいけないのである。

2. 過去の事実から

消費税を増税すると、税収は上がるどころか不景気になって、さらに財政は悪化するとい
う事実が過去検証されている。過去、消費税を導入した際、一時的に税収は上昇するが、そ
のあと景気を圧迫し、結局のところ税収は下がっている。5%に増税した時などは、あっとい
う間に全体の税収は減少し、未だに回復していない。
不景気の世の中、多くの生活者は物を買って控えるしかない。買い控え、つまり我慢をするこ
とだけが、一般庶民の節税対策なのである。増税はこれとは真逆である。何としても消費マ
インドを上げない限り、景気は拡大せず、財布の紐はゆるまない。
この不景気に、せっかく物を買ってくれる人にペナルティを与えているようなものである。

3. イギリス病へのプロローグ

イギリス病は、1960年代にイギリスの労働党が、「ゆりかごから墓場まで」と公共福祉に力
点を置いた政策から陥った、致命的な財政破綻のことをいう。景気回復の手立てなく福祉
国家を目指したものだから、慢性的な不況から抜け出せなくなった。
それを救ったのがサッチャーによる「新自由主義、新保守主義」だった。サッチャーは徹底
的な減税を施し、ハイエクに倣い政府の経済的介入を抑制、規制緩和で経済を自由競争

に委ねた。これが功を成してイギリスは劇的な復活をとげ、イギリス病から抜け出した。同時期に、米国のレーガン大統領も減税にて深刻な不況から脱している。不況になると社会主義、集産主義が蔓延する傾向がある。マスコミ、それに踊らされる我々大衆は、民主党を後押しして社会主義、イギリス病の道を歩んでいるように見える。大きな警鐘を鳴らすべきだ！

4. 消費税率の国際比較の愚論

消費税論議に必ず登場するのは税率の国際比較。

「消費税増税反対というが、日本の消費税率は国際比較するとまだまだ安い！消費税を先進国並みに上げるべきだ」と言うものだ。よく考えると、実に滑稽な論議でしかない。要は単に % という比較は全く愚論であり、「国によっては、品目によって消費税の税率が違う！」という事実を配慮しなければならないということである。

例えば、イギリスでは消費税率が17.5%であるが、生活必需品である食料品にはほとんどかかっていない。また、15歳までについては衣服・教育・文具・遊具でも非課税、つまり、消費税をかけると多大な負担が生じる品目や世代には、相当な配慮している。

そんな検討なしで、ただ表面上の税率だけで消費税を論議すること自体、ナンセンスと言っておきたい。ほとんど全ての商品やサービスに、消費税を一律に課税するという日本で、消費税率を国際水準並である10%~20%に上げてしまったら、庶民の生活を直撃し、大きな苦難を強いることになるだろう。これが政治家や学者が目指すところなのか。まるでどこかの国の『回しもん』のように見えて仕方がない。

5. 本当に日本の財政は「ハケ」???

「破綻懸念先」のことを金融業界の隠語で「ハケ」と言う。

政府は肥大化する財政赤字を補うために、「増税」のシナリオを作り、未曾有の財政破綻の危機という。財務省は、これを正論としマスコミや学者、大企業や政治家に洗脳させ、国を挙げての大合唱となっている。

あえて言いたい。

日本の財政が危機に陥っているという財務省の宣伝が正しくないと思っている。

財務省は欧州の政府債務危機を利用して、日本の消費税増税を強行しようとしている。そのために、これまで894兆円としてきた今年度末の政府債務残高が、いきなり1,000兆円を超えと言いだした。理由は、新たに政府債務に短期債務を加えたためだ。

894兆円の政府長期債務残高は大きな数値だが、この中に地方債務201兆円、建設国債251兆円が含まれている。地方債務も建設国債も償還に不安がまったくない政府債務である。問題があるのは391兆円の赤字国債残高である。しかし、日本は中央政府だけで647兆円の政府資産を保有している。資産を考慮したバランスシートでは資産超過の状態にあり、財政危機であるというのはやや不適正な情報であると言っておきたい。

また、欧州の政府債務危機に直面している国は、すべてが経常収支赤字国である。日本は巨額の経常収支黒字を維持しており、マクロ経済、マネーフローのファンダメンタルズが南欧諸国とは全く異なる。円高が収まらない本来はこの点にあり、諸外国の評価がその証拠である。つまり、直ちに消費税増税を決定しなければならない状況にはない。

現在の日本は財政危機ではないと財務省自身が認めたことを書いた日刊ゲンダイの記事（「財政危機」煽る財務省の大ウソが暴露された：2011年2月21日掲載）があり、財務省高官はその中で、『日本は対外金融資産が豊富で、国債の9割以上は国内で保有しているから財政危機ではない』と断言している。

6. ゼロクーポン債なんて必要ない！

東日本大震災の復興に関して、私が提案した、増税に頼らない復興策「ゼロクーポン債」(2011年4月5日)については、財務省の回答は、したがって明確である。国民新党の亀井亜紀子参院議員は、財務省とのやりとりで、「そんなものを出したら日本の財政は大変だと海外に思われる。いま国債は安定的に償還されているので必要ない」と言われた...とNHKの日曜討論で暴露している。亀井氏曰く、「え？日本は財政危機じゃないんですか」と聞いたら「大丈夫です」と。(財務省は)国民に言ってることと与党に言ってることが違うんです...。体面主義の役人体質だけは健全である。

7. 国民の意思は？ 民意とは？

消費税問題が直近二度の国政選挙での最重要問題であったこと忘れてはならない。その国政選挙で主権者である国民がNOの意思表示をしたこと。この国民の判断を踏みにじることは、民主主義そのものの否定になる。野田佳彦政権が消費税増税に進む考えを持つなら、その前に総選挙で国民の信を問うことが不可欠である。この手順を踏みにじることは許されない。インスタント政治家集団・民主党お得意の「民意」とは、いったい何か？政治家のご都合主義を容認すれば、亡国を招くこと、肝に銘じるべきである。

8. 政治家の見識、節操はいずこ？

今この時期に、なぜ消費税増税なのか？

前述した通り、日本の国家財政は実は、破綻懸念の状態ではない。国民に負担を求める前にやるべきことがある。官に対する無駄な支出が全く排除されていない。公務員給与削減や国会議員定数の削減もアドバルーンだけ。官僚の天下り利権の根絶、官舎利権の根絶も嘘だらけ。民主与党はこの2年間で、分厚い官僚支配を増長させているだけだ。嫌な事、困難な事に一切手を付けない現状で、消費税増税を認めるわけにはいかない。

今、我国がとるべき最良の政策は「景気対策」だと思っている。

景気を盛り上げ、事業を元気にさせ、収入が増え雇用機会も拡大し、その結果全体の増税を図ることだと思っている。

デフレ、円高の影響、海外との競合で仕事が減り資金難に苦しむ中小企業や農林水産業、加えて災害や放射能問題を新たに抱え、三重、四重、五重苦に悩み続けている彼らは、まさに「地獄絵」を見るようである。

これらの解消対策を何もせずして増税とは言語道断。全く現状を知らないノー天気な学者や政治家、役人や大企業のマスコミ諸氏は、机上の空論で増税を画策しても、どこに払う資金があるというのか。払いたくても金がないのが中小零細業者の現状である。

彼らは決して悪人ではない。みんな必死になって生きている、善良な市民である。

コンクリートから人へ...社会主義と言うのなら、なぜ、この人達を救えないのか、救おうとしないのか！ 彼らはみんな、税金で食っていない、本物の日本人である。

消費税5%は寧ろ世界に誇るべき事、どこも真似できない日本の『凄さ』と『魅力』である。

消費税を10%にすることが、希望ある将来の日本を築く政策とは、絶対思えない！

少なくとも今この時、とるべき手段では決してないこと、明言しておきたい！！

[参考ブログ]

未来のゆくえ: <http://mirai-yukue.net/205.html>

つぶやき館 : http://madonna-elegance.at.webry.info/201105/article_27.html

愚民諸君 : <http://gumin-shokun.seesaa.net/category/5539090-1.html>

Bhycom : <http://ameblo.jp/bhycom/entry-11102541731.html>